

にゅとぴあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ

新年明けましておめでとうございます



30周年記念事業サウス サンフランシスコ市訪問 ミュアウツ

No. 118

新年のご挨拶

会長 桐原 喜彦



昨年は、協会創立30周年の佳節で記念祝賀会（外国人による日本語スピーチコンテストを含む）、記念冊子発行、記念事業としてのだんじりインフォ

メーションセンターの開設、米国サウス サンフランシスコ市への訪問団の派遣、地球どんぶり事業（外国人と行く伊賀上野忍者村）等々が何れも実り多く実施されました。担当された関係役員・スタッフの皆さんに深く敬意を表し、感謝申し上げます。

昨年は相次ぐ超大型台風の襲来で、おそらく40歳台後半までの方々には、過去に経験の無い恐怖に陥ったことと思います。泉州路に居住する多くの外国人にとっても同じ経験をされたと思います。避難所開設が防災行政無

皆さんにはご壮健で越年され心新たに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

線で市から何度もコールされていましたが、しかも彼ら外国人にはさっぱり通じていなかったでしょう。自分がどの避難所エリアに住んでいるのかさえ…。

このように外国人への日常的な一般行政情報（保健・福祉・医療・教育・防災等々）が届き難い、つまり「情報難民！」だという話は昨年の市長懇談で話題になりましたが、急速に多言語の在留外国人が増加をするなかで、大きな課題だと考えます。

外国人の為のだんじりインフォメーションセンターへは過去27回を上回る33ヶ国、263人もの訪問がありました。（詳細は117号をご参照下さい。）多くはインターネット情報でセンターの存在を知ったということでした。

今後、インバウンドの増加を図るにはネットを活用し、繰り返し岸和田市の魅力を世界に発信することが効果的だと実感した次第です。

どうぞ良き年輪のひとつを重ねられます様心からお祈り申し上げます。



「にゅとぴあ岸和田」は世界の人のびと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。

30th Anniversary



Since 1989

ifa-きしわだ
岸和田市国際親善協会

姉妹都市・サウス サンフランシスコ市訪問ツアー



ツアー参加者

桐原 喜彦	井上 實	川崎 幸子	藤木美恵子	内田 喜江
鎮西 朋美	鎮西 彩乃	丹下 千鶴	宇野美千代	熊野 由香
草加 操	東田 和代	西村 令子	米川 典子	

10/23 (火)
10/27 (土)

岸和田市国際親善協会創立30周年記念事業の目玉として、昨年来組織的に取り組んできた岸和田市の姉妹都市・アメリカ合州国サウス サンフランシスコ市訪問ツアーが2018年10月23日(火)から27日(土)の5日間の日程で実施されました。

桐原会長を代表に14名の会員で構成する訪問団一行を現地の市長をはじめ市議会の議員、ロータリークラブのメンバー、姉妹都市委員会の会員、市役所各部署の職員など、すべての人々が親切にそしてフランクな態度で接してくれ、私たち一人ひとりの心に優しい暖かい光を灯し続けてくれました。太平洋を横断する約1万キロ11時間もの長い空の旅でさえ時空を超えた交流の親密さによって、より近く感じられる楽しいものとなりました。

1989年の岸和田市国際親善協会の創立と1992年の岸和田市とサウス サンフランシスコ市との姉妹都市締結から初めてとなる今回の民間交流訪問のきっかけは、なんとといっても3年前2015年の20名からなるサウス サンフランシスコ市姉妹都市委員会メンバーの岸和田市



▲市庁舎

への訪問でした。10月の山手のだんじり祭り(行基まいり)を久米田寺で間近に観、協会主催の懇親交流会など滞在中のおもてなしに感動したか、岸和田市や協会会員との更なる交流を機会ある度に呼びかけてこられた姉妹都市委員会々長フランク マックオーリさんらの熱い思いにもこたえる形での訪問ツアーになりました。

アメリカの学校や宗教施設での銃による殺傷事件などが大きく取り上げられますが、私たちの接したアメリカの人々の心は広く深くかつ友好的でしかもユーモアに富み、国境を越えて人間がお互いに信頼しあえるような社会・文化が大地に息づいていると感じました。

最後に、国際交流の更なる発展にはフランクさんのようなキーパーソンが双方の姉妹都市に欠かせないと確信した訪問交流ツアーとなりました。(井上 實)

1日目 THANKS LUNCH, CITY TOUR & 市議会主催晚餐会

Reciprocate — 3年前岸和田の山手だんじり見物に合わせて来日した時に、心からのおもてなしを受けたからこそ、今度は私たちがお返しする番だ— SSF 姉妹都市委員会副会長であるリックの言葉です。また、泉州マラソンで来岸経験のある会長のフランクは、2年ごとに1週間交換留学をしている高校生ばかりでなく、行政も含めた市民相互の訪問が必要だとずっと唱えておられ、それが3年前に実現しています。そして今回30周年記念行事の一環として有志によるSSF訪問となりました。

SSF 到着後、以前来岸されたお二人の議員の方も参加された、私たちからの THANKS LUNCH が最初の会

消防署▼



食となりました。ボリュームたっぷりイタリアン料理で、余ったお料理は、doggy bag ではなく大きな箱でお持ち帰りできます。このような箱が滞在中毎回用意されたのはとても斬新で、日本の「もったいない」の精神がアメリカナイズされていました。



▲陶板画贈呈式

その後消防署見学、救急車が一回出動するのに \$800 以上かかるとの事です。早く病院に搬送してもらうために taxi 代わりに使いかねない日本との大きな差を感じました。次は警察署見学、ハイライトは警察犬 Groot。臭いがかがせたボールをドラッグに見立ていかに探し出すか、その Groot のスマートさとハンサムな officer に私たちおばさんはメロメロでした。夕食の市議会主催の晚餐会の中で桐原会長から市議会場に飾ってもらうべく陶板画の贈呈式がありました。その陶板画は市民病院に飾られている時代画の、岸和田城とだんじりが重なっている部分を切り取り焼き付けたものだそうです。

滞在中 2 回も食事に参加してくれた市会議員 Gupta さんをはじめ数人の方々が来岸経験者です。次の訪問団には、行政経験のある方々やロータリーで活躍している方々も参加していただければ両市の友好関係がさらに発展できると思います。(内田 喜江)

2日目 サンフランシスコ市内ツアー & ロータリークラブ主催晩餐会

朝7:30にホテル入口に集合し、3年前に来日されたというベッキーさんのお店「ケーブルカー」に朝食を食べに行きました。映画に出てくる DINER の様なお店で、お肉入りと無しの2種類のオムレツ、タップリのシーザーサラダ、とっても美味しいワッフル等々…早起きして本当に良かったです!

そのあと、すぐ近くにあるサウス サンフランシスコ市役所を見学させていただきました。ロビーや会議室を見せていただきましたが、日本の事務的な雰囲気ではなく、いろいろな所にハロウィーンの飾り付けが施されていて人も場所もとてもアットホームでした。その後サンフランシスコの街並みを見ながらフィッシャーマンズワーフに到着しました。ここでの所要時間は15分!…でしたが、フランクさんの案内でレトロなゲームセンターで遊ばせてもらい、30分以上滞在してしまいました。



▲アルカトラズ島

さらにバスに乗りゴールデンゲートブリッジに向かいました。日の入りに反射した橋がキラキラ美しく光っていた為、真っ赤な橋なのに『ゴールデンゲートブリッジ』と名付けられたそうです。



▲ゴールデンゲートブリッジ

橋の中心近くまで歩いて往復しました。ここから見えるのが、映画に度々出てくるアルカトラズ島です。昔は『監獄島』と呼ばれ、母の大好きな映画『告発』の舞台になっているこの島を実際に見ることができて大・大・大感激していました!

またまたバスに乗り込み着いたところが、なんと傾斜27度もあるすごい坂道のロンバードストリートです。直線で3ブロック上り、下りはヘアピンカーブになっている道を降りてきました。左右にびっしり家が建って、住んでらっしゃる事に驚きました。とてもハードな午前中のスケジュールの後、ブルーミング・デールというデパートのフードコートで昼食でした。全ての食事がボリュームタップリでした。その後、ツインピークスやバイソンを見学し、夕食はロータリーの方々に豪華な食事をもてなしていただきました。とても美味しかったです♪ (鎮西 朋美)

3日目 ミュアウッズ、ワイナリー & 姉妹都市委員会主催晩餐会

3日目の朝は霧に包まれ、バスから見る風景は幻想的でした。ミュアウッズを散策する頃には生い茂る木々から木漏れ日が降り注いでいました。ミュアウッズは、レッドウッド(杉の一種)の森林で、自然を愛しその保全に努めた学者 John Muir にちなんで付けられた名前です。小道の両脇にそびえる樹齢1000年以上という古木や成長途中の様々な樹木の森林浴で心身ともに癒されました。そして大変よく保全されていて感動しました。

ソノマ州立歴史公園は、カリフォルニアミッションがあった場所で、カリフォルニアの礎が築かれた時代のスペイン風の建物が保護・復元されています。ソラノ伝道所は、インディアンの信徒たちと僧職にあった人たちの質素な

▼サウス サンフランシスコ高校ダンスクラブ 右端: ノルマンティ市長



生活の様子を感じることができました。

バスを走らせると美しい葡萄畑が広がってきました。その中のワイナリーでワ



▲姉妹都市委員会会長 フランク マックオーリご夫妻

インの味わい方を教えていただき、5種類のワインを試飲し「このワインは美味しい。これは甘い」など感想を言い合い大いに盛り上がり大満足の様子でした。飲めない私たちは、素敵なお庭やお土産物を見て楽しみました。

夜は、姉妹都市委員会主催の晩餐会です。会長のフランクさんは、着物(Uさん土産)に着替え、とってもお似合いです。サウス サンフランシスコ高校のジャズバンドクラブの演奏とダンスクラブのダンスでオープニングです。メンバーも一緒に踊って楽しみました。韓国・中国にルーツのある女性の市長さんも同席してくださり感激です。KIX 泉州国際マラソンに出場予定のユンジュンさんも同席してくれ、皆で応援することを約束しました。2月の再会が楽しみです。記念写真を撮り合ったりして、おかげさまで楽しい交流ができました。これからも良い関係が続くことが出来ればと願っています。この3日間付き添い案内して下さったフランクさん、リックさん、ビルさん、運転手のレザーさんには大変お世話になり感謝しています。(西村 令子)

関西国際センター 第21回ふれあい交流祭り

11/23
(祝)

チキチン、ドーン、ドーン。田尻町嘉祥寺青年団による「だんじり囃子」で、第21回ふれあい交流祭の幕が上がった。続いてゆるキャラの登場。がっちよのから揚げが好物の田尻町の「たじりっち」を先頭に5体が続く。トリは南大阪泉州観光キャンペーン推進協議会の「なすびん」のお出まし。続いて国際センターで日本語を学ぶ外交官などが民族衣装をまとってのファッションショーで会場は大いに盛り上がる。

「ふれあい交流祭」は関西国際センター支援協議会が主宰するもので、岸和田市から岬町の国際交流団体など11団体と大阪府によって組織されている。国際交流基金関西国際センターで日本語を学ぶ研修生と地元住民の交流を進めるのが目的で、毎年11月23日に開催されている。当日約50名の研修生が在籍しているが、行楽シーズンの3連休とあって外出された研修生もあり、研修生のブースが少なく少々残念な結果となった。



支援協議会団体によるブースには、ヨーヨー釣、薄茶の接待、プリクラ、居合道、書道等に交じり、当協会は「日本の遊び」と「駄菓子屋」、「折り紙」のコーナーでの出展。会場は盛況で駄菓子は底をついた。大人も交じって昔遊びに興じる姿が微笑ましい。これらのコーナーは全て出展団体が企画し用意する。参加者は無料で楽しめる。今回参加できなかった皆様、岸和田からは少し遠いですが次回にはぜひ参加されては。(米川 典子)

他国際交流団体との交流

SIFA 公益財団法人
吹田市国際交流協会

12/13
(木)

公益財団法人吹田市国際交流協会(SIFA: SUITA INTER-PEOPLE FRIENDSHIP ASSOCIATION)は、1991年(平成3年)3月に設立されました。そして現在では多文化共生社会づくりをモットーに、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成と地域に暮らすさまざまなバックグラウンドを持つ外国人を支援しています。

阪急千里線南千里駅前、千里ニュータウンプラザ6階というアクセスに便利な場所に本拠を構えているため、たくさんの市民や外国人が様々な活動や事業に参加しています。在住外国人は約5,050人(吹田市人口の1.4%)で、岸和田市の2倍以上(2,200人、1%)ですが、外国人が意外と少ないのは市が産業都市ではないという社会構造の違いによるものです。更に5大学、1,300人の留学生が学んでいて、吹田市の国際化に拍車をかけています。これが岸和田市と大きく違う点です。



私たち交流参加者12人が案内されたフロアーでは、SIFAの活動状況を示すパネルが掲げられていました。その中で特に注目されるのは、語学教室の充実さです。特に英語はレベル別に①初心者～⑤ネイティブ級にクラス分けされ、更に時間別、小学生、中学生、高校生、親子会話等々に、計22クラスが設けられています。それ以外にも、中国語、韓国朝鮮語教室もあります。日本語教室も曜日、時間、レベル(入門、初級、中級)により選択できるようになっています。吹田市委託事業として無料で昼間時間帯のみですが、SIFA会員以外でも参加できます。また仕事を持っている外国人の為に、SIFA会員限定(有料)で昼と夜の教室もあります。

また外国にルーツを持つ子どものサポートやコミュニティ通訳として有償ボランティアによる大病院での医療通訳や市役所、保健センター等の行政通訳も行っています。

機関紙 SIFA Times は発行頻度年4回でにゅ～とびあと同じですが、活動状況をもっとアピールするため全面カラーで増頁にすれば、もっと素晴らしい情報伝達手段となるでしょう。このように SIFA が幅広い活動ができるのは、当協会のような100%、ボランティアに依存する組織と違って、公益財団法人組織で、市の国際交流を担う専任スタッフとタイアップしながら活動できるからだと考えます。(広報部会)

異文化理解講座 パプアニューギニア & バングラデシュ編 大塚 充さん



11/10
(土)

11月10日に異文化理解講座を開催しました。一般市民を含む多数の会員が参加しました。今回のテーマは



「パプアニューギニア&バングラデシュ」で、講師は京都市在住の薬剤師大塚充さん。大塚さんはJICA青年海外協力隊員として2015年から2年間パプアニューギニアのマヌス州の総合病院の薬剤局で、日本式5S—KAIZEN手法によって局内の環境整備と業務の効率化に成果をあげ、地域に蔓延する感染症の根本的な対策として小学校を巡回しての児童への衛生啓発活動(手洗いの普及と定着化)などに精力的に取り組みました。その現地での活動は映像を使って紹介され、会場は熱心に聞き入っていました。

協力隊の真の任務は後進国への援助というより、現地地のお手伝いであり、現地語に言う「共に暮らし、共に働く」ことだと教えられました。そして現地の住民とも親しく交わり、浜辺の木陰で休む子どもたちのきらきらひかる澄んだ瞳と笑顔がとても印象的でした。

活発な質疑応答のあと、パプアニューギニアの重要産物のコーヒーが提供され、甘い香りと味を参加者全員で楽しむことができました。

さらに、昨年の9月から1ヶ月間はバングラデシュに、隣国ミャンマーからの70万人の避難民(イスラム教徒ロヒンギャと報道)が暮らす南部のキャンプ地に勤務先京都第二赤十字病院からの要請で派遣され、薬剤師として医療活動に従事してきました。このような国際的貢献の積み重ねが、いつかきっと国際平和につながることを確信しました。(井上 實)

30周年記念事業

岸和田東ロータリークラブ支援

地球どんぶりバスツアー



11/18
(日)

伊賀流忍者博物館

NINJA (Japanese Spy) は今や世界に知られています。その発祥地、伊賀上野を参加者47名が秋晴れ、紅葉の盛りのなか訪問しました。特にカラフルな NINJA 姿に変身したサロン生はすっかりその雰囲気になりご満悦です。伊賀忍者は実在した隠密集団であり、忍者とは「忍びの術」で戦場において敵軍に潜行する情報収集をはじめ、兵力の分析、陽動など、知力による戦略を中心に活動していたと云われています。

忍者屋敷内では外国語版併記の表記があり、外国人にも大変人気があります。火薬の製造技術が敵方のスパイに盗まれないために、典型的な忍者屋敷では、わな (traps) を仕掛けたり、からくり (tricks) 廊下を使って防御していました。忍者屋敷は農民の住まい



ifc コラム EL MUNDO

エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャーファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。



《戴帽式とナイチンゲール誓詞》

11月10日 マドカホールで岸和田市医師会看護専門学校・看護科3年課程第1期生37名の戴帽式が行われた。私は講師(英語・医療の国際化)として来賓に招かれたが、その厳粛な戴帽式に感銘を受けた。この戴帽式の起源はフローレンス・ナイチンゲールがクリミア戦争で、夜間も乱舞の明かりを頼りに患者から患者へと見守り続けたことに基づき、ナースキャップをつけてもらった戴帽生が「キャンドルを持った聖女」から、灯りを受け取り、その口ウソクの明かりの中でナイチンゲール誓詞を全員で朗読するのである。「われは心より医師を助け、わが手に託されたる人々の幸のために身を捧げん。」

ナースキャップの形を整えるために使われている糊が、院内感染の原因になりかねないということで、臨床現場では既にナースキャップをつけない病院が圧倒的であり、戴帽式という名称から戴灯式や宣誓式などに変えているところもある。しかし底に流れている精神は同じで、初めての病院実習に臨む直前に、教員が学生1人1人にナースキャップを与え、看護師を目指すものとしての職業に対する意識を高め、また生命に関わる職場での責任の重さを自覚させるための重要な儀式である。医療現場ではまだ実習生と言う身分で、まだ正式な看護師ではない。この後の現場実習、そして国家試験を経て、晴れて看護師となるのである。外国人旅行者、労働者などインバウンドの増大や、質の高い日本の医療サービスを求めて来日する富裕層の医療ツーリズムの増大により、今、医療現場では大きな変貌期を迎え、外国人のための医療対策は急務となっている。患者にとって、言語主導型の「医療通訳者」よりも、医学的知識主導型の「看護師・医師+語学力」が理想とされるのは言うまでもない。この意味で、当看護専門学校が医療の国際化の一環として、英語教育を導入し始めたことは注目に値する。(塩屋 裕)

そのもので、「どんでん返し」「抜け道」「隠し戸」「刀隠し」などの仕掛け、からくりを備えていました。忍者体験館では、水の上をどのようにして歩いたか、その道具を使って試してみると、現在のハイテク器具とは違ったその発想感に驚くばかりです。また作戦実行のために使った手裏剣などたくさんの忍具について学ぶことができます。

クライマックスは忍者ショーです。観客には危険を伴うため、厳重な注意説明のあと、実際に使用された手裏剣、刀、鎖鎌などの忍具を使って、忍者がいかに使用したかをバラエティを交えながら実演するもので、音響効果も相まって迫力満点のショーでした。

また近くのだんじり会館や伊賀上野城は岸和田を髣髴させるものでした。(広報部会)

10/20 July Bartiquin さん
(土) (フィリピン)

初めてEOCをお伺いしました。行きたい 行きたい! と思いつつ、なかなか行けなかった。行って良かった一と思えました。ほのぼのとしたご夫婦、そしてとても可愛いお嬢ちゃんのお話が聞けました。

一番衝撃だったのが、奥様のおじいちゃんのお話です。第二次世界大戦の時、10歳だった おじいちゃん。一人づつ死んでるか? を確認し、迫って来る日本兵に、銃剣で足を刺されても死んだふりをしなければいけなかった! と言う。その痛みは誰にも解らないだろう。大変な思いをされたんだなと思えました。今の時代も どの国でも 悪い人は沢山居ます! July様ご家族 そして皆様お気をつけて



くださいね!

それから、帰り際に部屋を出る時、お嬢ちゃんが「ごみ箱はどこ?」と尋ねて来られた。私はその辺を見渡し「あ、トイレは!? See you later.」と帰って来てしまった。あの時、中まで一緒に入ってあげるか、私とそのゴミを貰ってどこかに捨ててあげれば良かったなと、何時も後で気づくマヌケな私でした (>_<)

おじいちゃんと良いご関係ですね。貴重なお話ありがとうございました。(山脇 照美)

11/17 Kiran Kazmi さん
(土) (パキスタン)

11月はパキスタンの外交官 Kiran さんをお迎えて、楽しいひと時を過ごしました。

パキスタンと聞いてノーベル平和賞を受賞したパキスタン出身のマララさんを思い浮かべた方も多いのではないのでしょうか?それと同時に、武装勢力のことも…。ところが、Kiran さんのお話でパキスタンのイメージが大きく変わりました。パキスタンはインドの西隣に位置しています。暑い国かと思っておりましたが、日本と同じように美しい四季があります。彼女は一度も武装勢力を見たことがないですし、パキスタンの町並みや自然-雪を頂く山々や、夕日に染まる砂漠、文明を育んだ大河などーはとても美しく、世界遺産モヘンジョダロ、ラホール城、ガンダー



ラ美術の仏像なども有名で見どころ満載でした。また、マンゴー大国でもあり、日本の1つ分の金額で1ケース買えるほどだとか!うっとりするような美しい景色で、パキスタンに行ってみたいと思うほど世界観が変わりました。

私は昨年5月から English Open Café に参加しています。英語力はまだまだですが、ゲストによる母国紹介で、知らなかったことを知り、世界が広がりました。英語がわかる方もわからない方も English Open Café で「世界の扉」を開いてみませんか?(坂口 静恵)

和泉高校での日本語指導



和泉高校での日本語指導を担当させていただいています。8月にチェコのプラハから来たヤクブ・ヴォヴェス君で、クバ君と呼んでいます。日本語は中学校のときに選択しそれから興味をもって勉強してきたそうです。チェコの中学校で日本語が選択科目にあるのも驚きです。この一年はクバ君にとって貴重な一年になるはずです。

ではチェコとはどんな国でしょうか。周囲では「ああチェコスロバキアだね。」という人も多いようですが、スロバキアは別の国だと強調していました。チェコの歴史は波乱万丈で第二次世界大戦時にはドイツに攻められ、ロシアとの関係も悪かったと言います。またチェコといえればきれいな街並みに中世のお城で日本でも人気ですが、プラハではなかなか日本人には出会えなかったそうです。



さてクバ君の日本での生活は、まずだんじり祭りに参加したことで活気づいたようです。多くの人が掛け声で力を合わせるお祭

りは楽しかったそうです。それから次に台風21号が直撃してびっくりしたこと。チェコには台風や地



震など大きな自然災害はないので怖かったです。そんな経験も経て深まる秋とともに、クバ君の日本での生活も落ち着いてきたようです。学校ではサッカークラブに参加したり、図書室に通ったりしているそうです。

私達との日本語のクラスでは意欲的に勉強しています。大阪弁、標準語のアクセントには敏感でよく聞いてきます。流暢に話せるようになることをめざしています。また改めて感じさせられることは、カタカナ語や数字のよみかたも難関なんだという事。

私達日本語指導のチームワークで、クバ君の日本での生活が充実したものになること、そして日本がより大好きになること、将来の日本語のエキスパートになってチェコと日本との懸け橋になってくれることを目指して頑張っていきたいです。(西山 みゆき)

地球村親子クッキング ～ベトナムのおやつ編～

12/9
(日)



グエン・ティ・トウトウイさん親子を講師にお招きして、「ベトナムのおやつ」をテーマに親子クッキングを行いました。まず「パインセオ」の皮づくりから。米粉・薄力粉・ココナツミルク・ターメリック粉に水を加えて生地を作ります。具は豚ばら肉・むきえび・しめじ・玉ねぎを油で炒め、鶏がらスープの素で味付け。普通はもやしも入れるそうですが、お子

さん二人が苦手なのでグエン家では入れません。油を引いたフライパンに生地をうすく伸ばし、真ん中に具をのせてオムレツのように巻きます。水で戻したライスペーパーにこのオムレツとサニーレタスを一緒に生春巻きのように巻いて、ナンプラー・砂糖・米酢を沸騰させて作った「ヌックハム」というたれをつけて食べました。野菜たっぷりです。野菜たっぷりです。「バップサオボ」はスイートコーンと桜えびを炒めて砂糖と鶏がらスープの素で味付けしたもので、おやつにももちろんおいしいですが、甘みを減らせばいい酒の肴になる、と辛党の参加者も大満足の逸品でした。「O AN QUAN (王と市民)」というベトナムの遊びを紹介してもらいました。10の小部屋と両端に2つの大部屋を書いた地面や紙、そして50個の石と2つの特徴ある石があれば、どこでもできるゲームです。シンプルながら実は周回型な頭脳ゲームなのでした。今回中国人の参加者もいました。子どもも大人もみんなすぐに打ち解け、とても和やかな雰囲気の中、楽しい時間はあっという間に過ぎて行きました。(事業部会)



日本語サロンだより 箕土路編



今年4月からの箕土路サロンは、サロン生10名、日本語ボランティアスタッフ9名で始まりました。サロン生の母国は中国・ベトナム・インドネシア・イランで、9月には、1日だけアメリカ人3名が見学に来たこともあり。ベトナムやインドネシアといった東南アジアからは、若い技能実習生ですが、中国からは、長期滞在の人もいます。イランからは去年、2人がやって来ました。お母さんと女の子さんで、お父さんが迎えに来られることもあり。子供さんは6年生に編入され、この4月からは、山直中学校に進学しています。中学校ではバレーボール部に入り、学校生活にも適応してくれているようですが、やはり、勉強とクラブで疲れて、最近はお母さんだけが来られることも多くなってきました。技能実習生や中学生、家庭の主婦等、それぞれの人のニーズに合った対応を我々スタッフは試行錯誤しながらしています。

地球家族

他人事でなく今こそ

10月9日朝日新聞は奇しくも一面で次の2点を報じた。

- ① 地球温暖化が現状のまま進めば2030年にも世界平均気温が産業革命前より1.5度上昇し1億人以上が極度の早魃に曝され洪水リスクも2倍になる。生態系でも多くの動植物が、生息域を大幅に失う。国連気候変動政府間パネル(IPCC)の報告である。
- ② 全世界に虐殺や性暴力と戦うことを求める。人道主義は国益に優先する。経済的繁栄の裏に性暴力で人生を破壊された女性が多い。紛争当事者だけでなく見過ごしてきた国際社会の責任は重い。ノーベル平和賞受賞者ムラドさんの発言である。

上記2点は地球家族が平和裏に暮らす上での前提を脅かしており前者は外形的物理的、後者は内面的人間的阻害要因である。我々は最近、異常な猛暑と度重なる風水害を体感したが地球規模でも異常気象が拡大しつつある。IPCCは平均気温2度上昇で生物多様性に甚大な影響を与えると警告する。



ISに家族を殺害されたムラドさんは拉致され3ヶ月に亘ってレイプや暴行を受けるが脱出し現在、国連親善大使として活躍している。性暴力は武器であり一つの賞や一人の人間では解決出来ないとの彼女の主張は自らの過酷な体験に基づくもので万人の胸に迫る。地球家族は運命共同体で自らの利益や快樂の為に他を犠牲にして良い筈はない。これは我々に無関係の遙か彼方の遠い将来の話でない。今、足元に押し寄せる危機である。

他人事ではなく当事者として自ら考え行動しなければならぬ。IPCCが鳴らす科学的警鐘に耳を傾け、個々の内なる心の奥底に潜む自己中心主義と戦い続けなければならない。(奥野藤樹)

箕土路サロンでは、年中行事として、独自に七夕祭りをやったり、公民館まつりにも参加しています。七夕祭りではみんなの願い事を短冊に書いてもらい、こよりで笹の葉に括り付け、教室に飾り付けをして、「七夕」の唄を歌いました。「館祭り」では浴衣姿のサロン生の写真とお国の紹介をセットにした展示を最近では出品しています。

(箕土路サロン)



岸和田に暮らして...

かつては外国の街、岸和田も、住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな ifa-きしわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話いただいています。



KISHIWADA
第 27 回



第27回は
南浦 花穂さん
(フィリピン)

フィリピン出身の母と日本人の父を持つ花穂さんは日本国籍を持ち現在、家族と共に池尻町に住む。

日本で生まれ幼少の頃に母の故郷であるフィリピンのアルバイ州に渡る。そこで青春時代を過ごし国立ピコールカレッジで英語を学び卒業と同時に日本に帰る。彼女に、どちらを母国と思うかと愚問を発すると自分を生み育ててくれた両国は大切であり双方に愛着を感じると心情を吐露する。



フィリピン滞在中の思い出は尽きない模様ですが、日本の正確な交通事情と対比して印象深いのはジップ (jeepney) とのこと。これは 10 ~ 30 人乗りのボンネット型乗り合い路線バスで外観部全体をカラフルで派手な塗装で

装飾し 1 台として同じものはない。何処でも乗り降り自由で小さい道路にも入り込み利便性は高い。満員の時は天井を叩くなどして運転手に合図し料金も運転手に直接払えないので乗客の手から手へ渡りお釣りも逆方向で返る。



フィリピンの乗合バスジップ (jeepney: ジーブニー)



二つの異なる文化圏で育ちながら両国で、いじめやハラスメントを受けたこともなく時には大阪で友達と女子会を持つなど毎日をエンジョイしている。フィリピン同様に日本の果物も見事で、日本食は全て美味しいと女性らしい(失礼)。日本語英語共に流暢に話す漢字が苦手とのこと毎週、当協会の日本語サロンで、兄と共に勉強する。

この度、初めてだんじり祭りを見たが圧倒される迫力があり、感心したのは大量に発生したゴミも翌日には完全に片づけられていること。

現在、勉強の傍らバイト中ですが、いずれ自分に相応しい定職を持ち良き伴侶を得て日本に根付きたいと大きな瞳を輝かせつつ笑顔で話す。何事にも全力で真面目に取り組む彼女に対して幸運の女神がほほ笑むことを祈る。(サロン支援者の木下さんから一言) 自分の孫にしたい位に可愛いのが故に 1 日も早く就職して自立の上、社会の片隅でも良いから堂々と活躍を。(取材 奥野 藤樹)

Information

■2019年度総会

【と き】 4月27日(土) 13:30~
【場 所】 浪切ホール 4F 交流ホール
II部 澄琴会 大正琴演奏
*詳しくはチラシをご覧ください

■KIX 泉州国際マラソン招待選手歓迎交流会

【と き】 2月15日(金)
【ところ】 がんこ五風荘
【参加費】 3,000円
市の交流都市から招待するアメリカ、韓国からの選手を交え日中友好協会、日韓親善協会との共催で行います。
*詳しくはチラシをご覧ください

■マラソンランナー 街頭応援

【と き】 2月17日(日) 12:00~
【場 所】 岸和田城お堀端 消防署前

■Mixed Roots

外国にルーツを持つ子どもの生活支援や学習サポートのお手伝いいただける方を募集します。
【と き】 第2・4土曜日 13:30~15:30
【ところ】 マドカホール 3F 視聴覚室

■English Open Café

【と き】 毎月第3土曜日 13:30~15:30
【ところ】 マドカホール 3F 視聴覚室
*申込なしでどなたでも参加いただけます。

にゅとびあ岸和田 No.118 編集担当

大塚 洋・緒方理世・奥野藤樹・栗尾宣子・塩屋 裕・三森すみ代・内田満弥
お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072)457-9694

【協会事務局スタッフ募集】 年齢、性別、外国語の能力は問いません。国際交流事業に関心のある方でパソコン操作(ワード・エクセル)可能な方。謝金あります。勤務は、2019年5月より水曜日、第2・4土曜日の9:30~16:00。日曜、祝日、年末年始、お盆は休み。希望される方は、2月末までに履歴書をご提出ください。